

会員の ひろば

未曾有の 世界同時不況の渦中で 「やや大きな政府」へ 政策転換

十勝医師会

鹿追町国民健康保険病院

白川 拓

1980年代からの「金融の自由化」を背景に資本主義社会は市場のグローバル化を図り、「巨大な富」と「多くの貧困」が共存する格差社会を形成した。最近では、原油を投機の対象としたマネーゲーム、先物取引により、昨年の夏まで原油価格の高騰が持続し石油の関連した製品の価格の上昇を招き、第三次オイルショックを呈していたが、その後、サブプライム問題が世界的な景気の後退を引き起こした。

未曾有とも言われる昨今の世界的経済不況の影響が、現在、日本社会にも金融萎縮や雇用喪失として反映されており、格差社会を放置する中で急増している非正社員や派遣労働者などワーキングプア層からの大量失業者が続出しており、政治による解決が喫緊に求められている。今回の事態はアメリカ一極型の金融資本主義の終焉とも報道されており、アメリカも新オバマ大統領政権のもとで新たな政治経済政策で大胆な変革が急がれている。

冷え込んだ社会情勢で日本の医療は、医療崩壊や医師不足が社会的問題となって以来、その根底にある医療費抑制政策が大きな過ちであることに、多くの政治家や国民が気づき始めたことが、未だか

つてない変化であり私的には大きな成果と考える。さらに、サブプライム問題を発端に広がった金融危機が世界全域に経済不況を勢い留まることなく波及している渦中においては、真っ先に生活の崩壊が予想されるワーキングプア層や高齢者、医療や介護を受けている、など社会的に弱い立場の人達の救済が優先される。当面は雇用の安定を図り、社会保障制度を手厚くすべきである。

「持続可能な社会保障制度の構築とその安定財源の確保を図る」「中福祉・中負担の社会を目指す」という中期プログラムが昨年末に閣議決定され、政府も社会保障費自然増分2,200億円の削減を一部緩和した予算編成をしており、大いなる前進である。恒久的に医療を含めた社会保障制度を充実させるためには、国の姿を大胆に転換すること—アメリカ型「小さな政府」からヨーロッパ型「大きな政府」を目指すことが、世界一の超高齢化国家である日本の唯一の進路と考えるのであるが、政府が今までの日本は「低福祉・低負担の社会」であることを認め、中福祉国家を目指すことを明言しており、道のは厳しいだろうが国民には喜ばしい画期的な政策転換である。

さらに、国が「小さな政府」から「やや大きな政府」「中福祉国家」を目指すことと舵取りを大きく転換したことは、2年以後には増税は必ず実施されるであろうし、医療を含めた社会保障制度を充実させると180度の政策転換であり、20年以上継続してきた医療費抑制政策に終止符を打つことになる。手放して喜んでいいのか、複雑な心境でもある。

「公立病院改革ガイドライン」に関しては、当初より私は反対し取りやめるように国や道に要望しているのであるが、地域のさまざまな医療状況を無視して、経済、経営効率のみを重視し、経済・市場原理を医療の現場に浸透させていくことは、地域間で医療格差の拡大を招き、地方の多くの中小病院

が消滅し医療崩壊に拍車をかける。つまり、地方の多くの公立病院は民間では参入できない不採算地域に存在し、公立病院の理念である「全人的医療の提供」「保健・福祉・介護・医療を統合した地域包括ケアシステムの確立」はヒューマニズム精神が貫徹されており、市場原理を安易に導入すれば、その理念が形骸化するだけでなく、病院とともに地域社会の崩壊へ繋がるのである。

確かに、医療・福祉・介護などの社会保障制度領域は市場原理が全く馴染まない分野であり、社会的共通資源として絶対に崩してはならないし、高齢化社会では介護や医療で多くの需要が今後も見込まれるため、保護・規制政策のもとで社会保障の分野で大きな内需の拡大を計ることが重要と考える。

“ゴールドミス” 雑感

札幌市医師会

門脇 純一

4月下旬のある日、目的なしにテレビのスイッチを入れたら、“ゴールドミス”(gold miss)の言葉が飛びこんできた。和製英語とされるオールドミスはすっかり耳に慣れてしまっていたが、さてゴールドミスはどんな女性なのか、疑問、興味をもって、まずインターネットで調べてみた。

この言葉自体は、どうやら韓国映画からの由来らしいので、和製ではなく、韓(国)製英語といってよいのであろうか。

この映画の主演女優はキム・ジョンウンと言う名で演じている。内容は、充実した経済力を基盤にした独身女性で、観客受けもよいらしい。その証拠に次回作にもとりかかっているとのこと。

韓国の雇用情報によると、ゴールドミスの条件は、年俸440万円以上で、年齢は30~45歳の未婚女性

で急増中とある。この上の条件を満たす女性たちは、プラチナミスと呼ぶそう。

女性の多くは、宝石に目を奪われるが、このような呼称はいかがか。このような、形容詞的使用法は日常よく見かける。シルバーエイジ、シルバーシート、ゴールドエイジなど。いま、種々問題を起こしている後期高齢者医療制度などはどうだろうか。

いままで施行されてきた制度の印象を引きずっていることもあるが、お荷物扱いはほどほどにというのが世論のようだ。これは、横

文字と縦文字の印象の違いではない。

日本の諺のなかの、「沈黙は金、雄弁は銀」は、他国には受け入れられづらい内容であるし、資本主義、市場主義の世では、隔世の人などと言われかねない。

最近、ぶらりK書店に寄って立ち読みをした書（経済評論家の勝間和代氏）のなかに、インディな女性という書き出しの部分があり興味を持った。

彼女のいうインディは、独立（independent）の横文字の前半を指しているのであろう。インディ

な女性とは、年俸は600万円以上で精神的にも周りに依存することなく自立している人とある。それに加えて、いい男性のパートナーの存在をあげている。この男性も年をとっていくほどすてきになっていくとあるから嬉しい。すなわち、男性の刺激も忘れておらずこの点はゴールドミスと異なっている。

日本、隣の韓国の女性も社会的進出は目覚しく、努力している姿は将来に期するところもあり好ましい動態といえる。

お知らせ

北海道衛生検査所 精度管理事業について

道では、医療における衛生検査の重要性に鑑み、衛生検査所の精度管理事業として、「北海道衛生検査所精度管理専門委員会」を設置して、計画的に各施設の立入調査を実施しているほか、「北海道精度管理システム運営委員会」を設置して、衛生検査所に対する外部精度管理調査（ブラインド調査*）を実施しております。

このたび、平成20年度の外部精度管理調査の結果について、報告書を取りまとめました。

この調査結果は、衛生検査所の精度管理の向上に役立てられております。

また、本事業の概要及び外部精度管理調査結果報告書は、北海道庁のホームページ上に公開しておりますので、医療機関の皆様におかれましても、業務の参考としてください。

北海道保健福祉部保健医療局医療政策薬務課ホームページ

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/iry/seidokanri.htm>

（検索サイトから、「北海道衛生検査所精度管理事業」で検索することもできます。）

※ブラインド調査 検体を配布する際に、衛生検査所が調査検体であることがわからないように、医療機関から検査を依頼し、衛生検査所の検査精度を調査するもの。

【連絡先】 北海道保健福祉部保健医療局医療政策薬務課

〒060-8588

札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111（代表）